愛隣館研修センターニュース

〒612-8141 京都市伏見区向島二ノ丸町 151　Tel:075-621-3849　Fax:075-621-1579
E-mail:airinday@sunny.ocn.ne.jp　http://www.airinkan.net　振替:01020-5-39321
編集発行所:社会福祉法人イエス会 愛隣館研修センター　発行責任者:平田 義

97号

いのちを守る活動～熊本地震での働き～

熊本地震から 3 か月が経過しました。いまだに多くの方々が避難所での生活を強いられています。今号では、震災直後から人工呼吸器ユーザーなど重症心身障がい児者の命を守る支援を続けておられる、熊本再春荘病院小児科医師で認定 NPO 法人 NEXTEP 理事長の島津智之さんにお話を聴きました。

＜震災直後の様子＞

Q:震災直後はどのような様子でしたか？

A:4 月 14 日の 1 回目の地震の時はそれほど大きな揺れではないように感じたので、病院には向かわずに、自宅待機をしていました。すると、人工呼吸器ユーザーの方から病院へ避難したいとの申し出があり、7 家族の方々が、病院に避難してこられましたのであわてて病院へ向かいました。。

4 月 16 日の本震は、真下から突き上げられる感じで、家の中もぐちゃぐちゃになってしまいました。すぐに家族を乗せて病院に向かったのですが、道路はいたるところに瓦礫が散乱している状況でした。病院では急患で来られる方々の対応をする一方で、人工呼吸器ユーザーの方を含めて、NEXTEP で関係している 35 人の方の安否を確認し、自宅で過ごすことが困難な方々を、病院と NEXTEP の事業所で受け入れをいたしました。病院で 18 家族、事業所で 5 家族、合計 80 名近い方々が避難してこられました。

＜十分な備え＞

Q:大変な状況だったと思うのですが、避難を受け入れるまでの動きがスムーズであったように思われるのですが、どのような備えをなされていたのでしょうか？

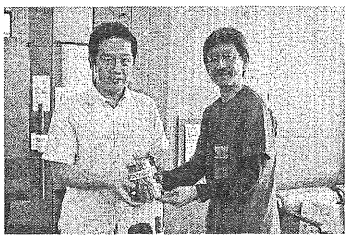
A:実は、1 回目の地震のあと、NEXTEP では人工呼吸器ユーザーや重度の障がいのある方々と SNS でライングループを作ったんです。そこで、2 回目の地震の後、すぐに連絡を取り合うことができました。また、毎年のように台風が直撃して、停電する恐れがあることから、病院では台風が近づくたびに避難入院を受け入れてきました。このことが、今回の予期せぬ災害に対しても訓練的役割を果たしたと思います。また、東日本大震災の際に、重心児者の支援を行って来られた、宮城の田中総一郎 Dr. の講演をこの５年間で３回開催したことも役に立ったと思います。

＜避難後の支援活動と広がり＞

Q:それだけたくさんの方々が避難してこられるとその人たちの生活必需品の調達が必要だったと思うのですが。

A:これも、SNS を使って、必要と思われる、水や食糧、おむつやパッドなどの要請を行いました。すると震災があった日の夜には、北九州につくった拠点に持ち込んでもらったものだけで数トン分の、必需品が届いたのです。物資の集積拠点を北九州の友人のところにつくったことはとてもよかったことやったと思います。被災地での医療や福祉の場所を拠点にすると、そこでの受け入れのためのスペースや仕分けなどのために人員が割かれることとなり、動きがとりづらくなってしまったと思っています。

また、SNS でのアピールはどんどん拡散していって、熊本出身の芸人のクリームシチューの上田さんや、東日本大震災でも支援活動をされていたサンドイッチマンさんなどがシェアしてくださって、支援の輪がどんどん広がっていきました。特に震災の経験をされた、関西や東北の障がい児者の家族の方からの支援が大きかったです。

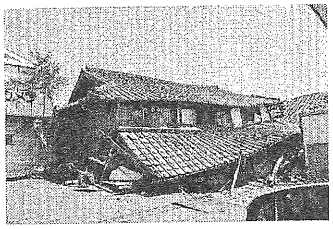


4月29日、「シサム」のメンバーである金岡耕佑さんからの義援金を手渡す。

＜その後の被災者の様子＞

Q:避難してこられた方や被災された障がいのある方々のその後はどのような感じでしょうか？

A:避難された方々は、家の片付けが終わった方から順々に 1 週間から 10 日間、長い人で 3 週間後に自宅に帰っていかれました。ただ、未だに、自宅の道路が進入禁止で、片づけもできない一家族だけは避難生活を続けておられます。また、仮設住宅に移った方もおられるのですが、その仮設住宅が駐車場からの距離が遠く、重度の障がいのある家族にとってはとても不便がありますし、仮設も狭く、お風呂も自宅では入ることが難しいなど、スロープだけは設置されていても、重い障がいのある方が生活していくための配慮は何もなされていないのが現状です。



震災後、3ヶ月が経過しても、壊れたままの家があちこちに↑

＜今後の見通し＞

Q:今後、どのような支援が必要になってくると思われますか？

A:仮設住宅に入られた方が震災前の日常に戻っていくには、2 年から 3 年は要するのではないかと思われます。ですので長期的な支援がこれからも必要になってくると感じています。

キャンナスという一人訪問看護を育てる会が、数年単位で仮設住宅や避難所を回って活動を続けていくそうですので、そこのバックアップを私たちも続けていこうと考えています。ヘルパーや相談支援専門員などの専門職も手が足りていない状況が続くと思われるので、長期間滞在して支援を継続してくれる方がおられたら助かると思います。

また、重症心身障がい児者だけでなく、発達障がいのある方や不登校の方などの、これまでも地域での生活に生きづらさを抱えていた方々の心理的なサポートも重要になってきています。これまでも厳しい生活を強いられてきた家庭なんですが、地震によってそのニーズがより顕在化されてきているように感じています。

＜今後に向けて＞

Q:この震災を通して、感じておられる事や今後に向けてどのようなことを考えておられますか？

A:今回の地震は夜中に起こったので、父親がおられるご家庭は、避難するのも比較的スムーズに行うことができたと思っています。あと、地域で生活されている方々は、日頃から、ご近所付き合いがあった方も多く、手伝ってもらうことができた方も少なくありません。このように、地域によってはいろいろあると思いますが、学校や訪問看護ステーション、ヘルパー事業所などと日常的に繋がっておくことが大切であったと痛感しています。自分だけでがんばるのでなく、複合的なネットワークを持っておくことが、いざという時の備えには一番大事なことではないかと感じています。

震災前の状況に戻るというより、震災があったことによって、より強固なネットワークが構築されて、一人一人がその人らしく自己選択、自己実現していけるようなしくみが、新たに生み出されていくことを期待して活動を続けていきたいと考えています。

島津智之さんとのお話を終えて

人工呼吸器ユーザーなど重症心身障がい児・者にとって、日常的に地域との繋がりを持っておくこと、専門機関などとのネットワークを築いておくこと、自然災害を想定した避難訓練などを行っておくことが、いざという時にいのちを守ることに直結していくことがよくわかりました。島津さんたちの「いのちを守る」活動にただただ敬服するばかりです。島津さんどうもありがとうございました。（平田）

今年の1月に出版された、島津さんが理事長を務めるNEXTEPの活動を紹介した、素晴らしい本です。是非、手にとって読んで下さい。

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆

「平和の敵は無関心」

今年で14回目を迎えた法人の沖縄平和研修。私たち一人ひとりが「平和をつくりだす」ために何をなすべきかを問われる機会となりました。参加したメンバーのレポートをご一読ください。

【いのちを脅かされる現状】

岡山宗平

私は初めての沖縄でした。特に驚ろかされたのは、実際に見た普天間飛行場でした。沖縄戦当時、激戦地であった嘉数の高台から普天間飛行場を見ました。街の中に広大な米軍の飛行場がある光景はまさに異様な感じでした。米軍のオスプレイやヘリがひっきりなしに自分の頭上や街の上空をすごい騒音を出しながら飛んでいました。

私たちの上空を
轟音を上げながら飛び廻るオスプレイ↑

また、普天間飛行場の周りにはフェンスで覆われていること。本土では見られない光景でした。米軍の飛行訓練について、それらが飛行場の周りに住んでいる住民への健康被害にもつながる事を実感しました。夜も満足に眠れないだろうなと思いました。何の為に飛行訓練や演習をしているのか。また戦争を繰り返そうとしているのか。私はそんなことをしても全く意味がないのではないかと思いました。

そして沖縄国際大学のヘリ墜落現場も見ました。ヘリが墜落した時の校舎の壁や焼けて残ったアカギの木を見ました。自分の家に墜落したらと思うとそこが安心して暮らせる場ではなくなってしまいます。自然も破壊されます。安心して暮らしていくにはと思うと、本当に米軍基地の撤去または国外移設をして、米軍が占めている土地の返還を呼びかけていきたいと思いました。

米軍基地は沖縄だけの問題ではなく、本土の問題でもあるということを感じなければいけません。基地を無くすだけでは話が進展しないため、国外へ移設することも考えないといけないということを皆さんに理解してほしいと思いました。５日間の沖縄研修でしたが、たくさんの経験をさせて頂きました。自分では精一杯な思いでしたが、沖縄が今もいのちを脅かされている現状があることに気づきました。本土では知りえない情報も現地で知ることが出来ました。行ってみないとわからない現実が本当にありました。

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆

【学び、気づき、想う】

山口洋介

社会福祉法人イエス団沖縄研修において 4 泊 5 日の学びの時を得ました。戦績めぐりや資料館、沖縄県民の方々との直接的な交わりを通して多くを学びました。以下 2 点に焦点を当て振り返ってみたいと思います。

①私は本土に暮らし、沖縄問題に対して他人事の様に無関心であったこと。そして、第二の加害者意識を持つに至ったこと。
②国は、時の権力者によって、民意の阻害や力による支配など、命が大切にされない社会に変貌する可能性があること。

①については、案内してくださった又吉京子さん（米軍基地の県外移設を訴える「カマドゥー小たちの集い」メンバーで沖縄キリスト教センター館長代行）の話にふれたいと思います。普天間基地から轟音を上げ飛び立っていく軍の飛行機に時折話し声が聞こえなくなる中、基地があるゆえの悲劇として起こった米軍属による沖縄うるま市強姦殺人事件についてふれられました。「私たちは訴えを続けてきたが、基地をなくすことが出来なかった」、「私たちの訴えは無視し続けて来られた」「今回の事件は私たちの責任である」、と強く話されました。多くの日本国民が少数者である沖縄県民に問題を押しつけている現状（日本にある米軍専用基地の７４％は沖縄にある）に、多くの沖縄県民の怒りは限界に達していると。このような又吉さんの話から、私は、傷ついている人に対して無関心という態度をとり、考えるべき問題に目を背けるなど、自分自身が痛まないために、差別していることに気づく機会を与えられました。

②については、辺野古新基地建設阻止行動を続けてきておられる金井創牧師が操縦する船、「不屈」に乗せていただき辺野古の海の現状を見てきました。

監視を続ける沖縄防衛局の警備船↓

私たちが辺野古基地周辺まで船で立ち入ると、「区域内に入ってはいけない！」と沖縄防衛局の警備船から大音量の指示が発せられ、強く緊張を覚えました。現在、辺野古埋め立て承認取り消しをめぐる裁判にて国との和解成立の過程にあり、以前の状況と比べて、辺野古海上は昨年とは比べ物にならないくらいに穏やかであると話されました。また、本来なら 2014 年には辺野古新基地が完成されていたはずだが、非暴力での基地建設阻止行動の力により、今も基地建設が止められている話を聞きました。人を殺すための活動拠点となる軍基地建設を不屈の精神をもって阻止する意味を金井牧師との関わりを通し感じました。

最後に、日本の時の権力者支配における構造上の問題に対し、沖縄の人々はいち早く気づき、平和に暮らせる社会を目指して行動している実態をこの研修を通して知りました。沖縄の地で学んだことは、民意の集合と行動化は自らが望む社会に変革できる可能性を秘めているということです。それぞれの地で出会った方々の運動や「オール沖縄」にみられるような民意を大切にする集合体による働きは、新たなうねりとなり、社会変革へと繋がることが明らかになりつつあるように思われます。

今後、私は、本土に住む人間として、目先の利益よりも、次の世代にどのような社会を残したいのか？という見地を深め、沖縄がおかれている現状に目を背けることなく、それぞれの関係者と協同し、平和な社会をつくり出すための活動を出来る事からはじめていきます。

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆

「ＭＪ」でプラレールを企画して

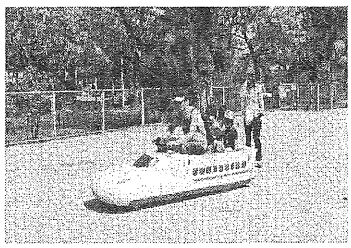
佐藤雅裕

５月の連休のＭＪ（京都文教マイタウン向島）は、３年前から「プラレールであそぼう！」が恒例となり、子どもたちで大賑わいになっている。

企画したのは私だが、そもそも引きこもりのＡさん（自閉症）が得意とするプラレールの複雑なレイアウトで、子どもたちに遊んでもらいたく企画した。しかし、Ａさんは緊張されて体調を崩し来ることができなかったため、急きょ愛隣館スタッフで試行錯誤にレイアウト作成した。それでも、想像以上にお客さんがたくさん来てくれて、会場は大賑わいだった。レイアウトは崩壊したが（笑）。

ただ、赤ちゃん連れで子どもたちだけで来ている兄弟や、学校が休みの日はお昼ごはんを食べていない子どもたちもいることがわかった。夏休みも・・・と思うとゾッとした。母子世帯や就労形態・夜間就労など、家庭にもいろいろな事情があるため、地域ぐるみで考えていかなければいけないと感じた。それからＭＪのキッズキッチンへとつながった。

また、ＭＪのある寄り合い（毎月第３火曜日の夜）で、「子どもが乗れる電車模型を走らせたいな！」と盛り上がり、とうとう今年実現した。福知山で電車模型を趣味で作っている方に依頼して叶った。廃材やバッテリーを使っての手作り模型のため、途中で止まったりなどハプニングはあったが、何回も乗って喜んでいる子どもたちの姿を見て心が和んだ。



ＭＪの寄り合いで、向島が盛り上がるような楽しいことや夢を語っていると、協力者が増え、いつのまにか実現している。そして、その企画から新たな地域の課題も見えてきて、次へとつながっている。ＭＪは向島地域にとって素敵な場所だと思う。

最後に、Ａさんの作るプラレールのレイアウトは、とても複雑な路線だが必ず全部つながっているので素晴らしい。いつかは・・・とまだ秘かに思っている。

2015年度献金者リスト（96号追加）　**感謝を込めてお名前を載せさせていただきます。**

五藤薫子,後藤一志,上内鏡子,池添素②,野島正光・共子②,丹羽克吉②,喜多明子②,土井健司②,小久保正②,土井義之②,(匿名),北野井一恵・智恵子②,髙木恵子②,中西静子,菅令子②,清水元介②,横山明子,北川聡子②,刀根史恵②,加治木政子②,宮本真希子②,栗原宏介,中西仁美,冨士定夫②,中垣陽子,森田和子,竹下佳貴,坂本紘輝②,村田稜太②,朴実・清子②,武澤信夫・直子,高橋秀幸(敬称略)

お名前の掲載が漏れてしまい、申し訳ありませんでした。

2016年　夏期献金のお願い

皆様方のご理解とご支援によって支えられ、活動を続けられますこと、心より感謝します。今年度も夏期献金にご協力頂きますよう、お願いを申し上げます。

《夏期献金・要項》

目　　的：障がい児･者とその家族とが地域で安心して暮らすことができる為に愛隣館研修センターの今後の活動を支援する

目標金額：3,000,000円

郵便振替：01020－5－39321

口座名：社会福祉法人イエス団愛隣館研修センター

★お知らせ★

▽愛隣館研修センターは、8/12-17 まで休館日とさせていただきます。

★編集後記★

▼ 97号のご意見ご感想お聴かせ下さい。(さ)

▼相模原市の障がい者支援施設に刃物を持った男が侵入し、19名の入所者の方々を刺殺した▽障がい者を「生きる価値のない人間」として命を奪ったのだ▽怒りを禁じえないと同時に亡くなられた方々に哀悼の意を表します▽障がいの有無に関わらず、一人ひとりのいのちが大切にされる社会を共につくりだしましょう！(ひ)